

サイモン・ロディア (1921-1954)

ワッツタワーはイタリア人のタイル職人であるサイモン・ロディアが33年もの月日を掛けて、たった一人で築き上げたタワーである。

このタワーが建てられているワッツという地はロサンゼルスの中でもいわゆる治安の悪い地域であり、長時間の見学はできなかった。

高さ約30mのこのタワーを事前に写真で見て物凄い大きな物を想像していたが、実際見てみると想像よりは小さく感じたというのが第一印象である。

しかし、その後近づいて、タイルや貝殻、ガラスの破片が貼り付けられている様を見、それがたった一人の人間が足場も組まず工具を持ってよじ登って作ったと考えると、とてつもなく大きいものだと感じた。

このタワーは建築基準法にも適合せず、商業的な目的もなく、用途すらない。ただ芸術や創造意欲のために長い年月を掛けて作り上げたという情熱をひしひしと感じた。ものづくりをするにあたって、廻りを見ることも当然大事なことであるが、一つのものに情熱を持って向かい、作り上げていくことも大事なことではないかと考えさせられた。

